


サバティカル期間における研究経過・成果報告書

令和 2年 3月 2日	
国立大学法人茨城大学長 殿	
所属・職名 <u>全学教育機構 国際教育部門 教授</u>	
氏 名 <u>八若 壽美子</u> 	
下記のとおり、サバティカル期間が終了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。	
サバティカル制度を利用した期間	令和 1年 9月 1日 ~ 令和 2年 2月 29日

<p>①研究経過について (利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。)</p>	<p>日本留学後3~10年経過した元留学生の留学評価及び評価と日本語学習の関連を探るため、サバティカル期間を利用して国内在住2名、海外在住22名のライフストーリーインタビューを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月: 国内在住の元留学生(タイ・インドネシア各1名)のライフストーリーインタビュー・文字化・分析、海外調査準備 ・10月: タイ在住のタイ人元留学生9名のライフストーリーインタビュー・文字化、国内元留学生に関する論文を「茨城大学全学教育機構論集グローバル研究3号」に投稿 ・11月: インドネシア在住のインドネシア人元留学生9名のライフストーリーインタビュー・文字化 ・12月: ベトナム在住のベトナム人元留学生4名のライフストーリーインタビュー・文字化 ・1月: ライフストーリーインタビューの文字化、分析 ・2月: ライフストーリーの分析、研究成果公表準備、報告書作成準備
<p>②研究成果について (目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。)</p>	<p>サバティカル期間に行った調査は、科学研究費補助金基盤研究(C)「元留学生の留学評価と日本語学習の関連に関する実証的研究」の一環として海外在住の元留学生を対象にライフストーリーインタビューを行い、日本留学の意義を探り、その評価と日本語学習の関連を解明しようとするものである。同期間中に24名のインタビューデータを収集し、過去2年間の12名と合わせて36名分となり、本研究でのデータ収集を完了した。期間中に収集したインタビューデータを文字化し、解釈を加えて個々のライフストーリーとしてまとめた。これらのライフストーリーを非正規生(日本在住・海外在住(国別))、正規生(日本在住・海外在住(修士・博士修了者、博士修了者))の各群に分けて考察を加えた上で、日本語学習と留学評価との関連を概念図化を試み、発表する。公表予定は以下のとおりである。</p> <p>◎研究成果の公表予定</p> <p>○口頭発表(応募)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育国際研究大会 香港・マカオ(10月31日~11月1日) 「タイの日系企業で働く元交換留学生の留学評価:留学期間による比較」 ・日本語教育学会秋季大会 (11月28日, 29日) 「インドネシアの大学で働く元留学生の留学評価:修士・博士課程留学経験者の場合」 ・インドネシア教育大学 日本語教育セミナー (8月) 「インドネシアの大学で働く元留学生の留学評価: 理系博士課程留学経験者の場合」 <p>○論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨城大学全学教育機構論集「グローバル教育研究」第4号 「ベトナムで日本語教師として働く元留学生の留学評価」(単著) 「タイ日系企業で働く元交換留学生の留学評価:翻訳・通訳業務従事者の場合」(共著: 小林英弘) 他投稿検討中 <p>○科学研究費補助金基盤研究(C)「元留学生の留学評価と日本語学習の関連に関する実証的研究」研究成果報告書(web公開)</p>